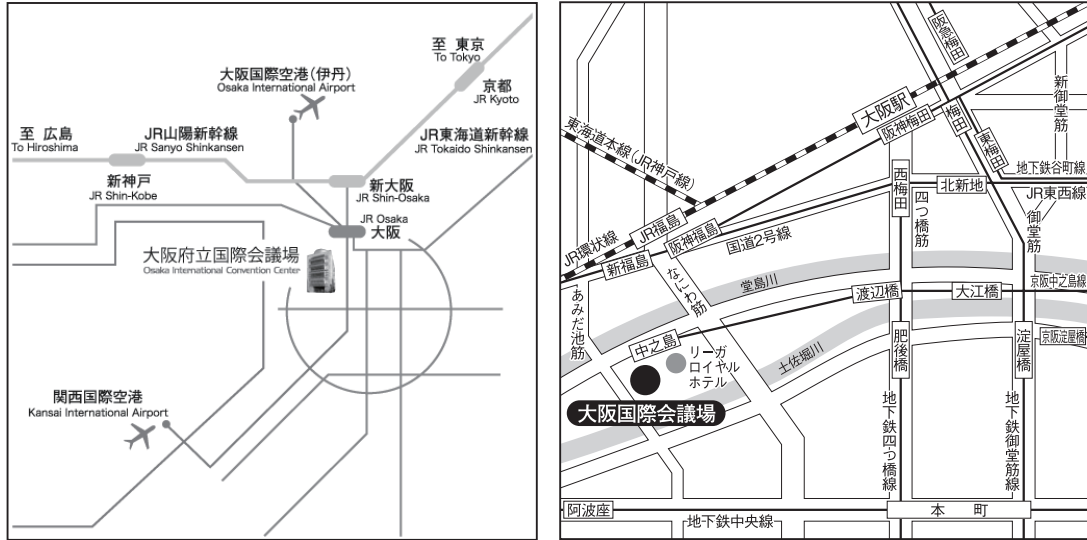


会場案内



交通 ● 関西国際空港から JR「大阪駅」まで約55分

空港リムジンバスで「大阪駅」まで約60分

- 大阪国際空港（伊丹）から 空港リムジンバスで「大阪駅」まで約30分
- 新幹線（新大阪駅）から JR在来線で「大阪駅」まで約5分

JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪市営バス（53系統，船津橋行）または（55系統，鶴町四丁目行）で約15分，「堂島大橋」バス停下車

周辺アクセス

- 京阪電車中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（2番出口）すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分
- JR東西線「新福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 大阪市営地下鉄「阿波座駅」（中央線1号出口・千日前線9号出口）から徒歩約15分
- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから，大阪市営バス（53系統，船津橋行）または（55系統，鶴町四丁目行）で約15分，「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが，「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行されており，ご利用いただけます（定員28名）
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」（4番出口・住友ビル前）から約15分

詳細は<http://www.gco.co.jp/>でもご覧頂けます。

各演者，座長の先生ともに，時間厳守をお願いいたします。
発表時間は，一般演題5分，スライド供覧3分，討論はいずれも2分とします。

3/10 (土) **(第1日目)**

9:00-9:35

① (一般) チオ硫酸ナトリウムが有効であったcalciophylaxisの1例

○西原克彦，宇都宮 亮，藤山幹子，佐山浩二 (愛媛大)
茎田昌敬 (同・腎臓内科)

62歳，男性。透析治療中。大腿内側に有痛性潰瘍を形成し，生検などからcalciophylaxisと診断した。チオ硫酸ナトリウムの静注で加療した。

② (一般) Churg-Strauss症候群の1例

○三木康子，高橋和嘉子，佐々木祥人 (神戸掖済会)
川原康洋 (明石市)

80歳，女性，喘息既往あり。下肢全体の紫斑と下腿部の疼痛があり受診。好酸球52.3%と高値であった。CSSと診断し治療行った。

③ (ス) 高安動脈炎に伴い結節性紅斑様皮疹を発症した幼児の1例

○永井 宏，錦織千佳子 (神戸大)
山田 琢 (姫路赤十字)

5歳，女児。1歳時に高安動脈炎と診断され加療中。初診の約3ヶ月前より両大腿，次いで両下腿に浸潤性紅斑が多発してきた。

④ (一般) リンパ節浸潤を伴った紅皮症型菌状息肉症の1例

○岡 知徳，宮垣朝光，水野結花，遠山 聡，高橋菜穂美，佐藤伸一 (東大)
野口絵麻，淡路健太郎，日置智之 (自治医大)

28歳，女性。3年前より体幹に紅斑，足底に亀裂。徐々に紅皮症を呈し，リンパ節腫脹を伴った。菌状息肉症，リンパ節浸潤と診断。

⑤ (一般) 診断に苦慮した小児の皮下脂肪織炎型T細胞リンパ腫の1例

○長野 徹，増田泰之，中村文香，鷺見真由子，小坂博志 (神戸市立医療センター中央市民)
前田紘奈，今井幸弘 (同・病理診断科)

4歳，女児。左前腕の硬結を主訴に当科受診。生検で深部の炎症性疾患疑ったが最終的に上記と診断した。

9:40-10:20

⑥ (ス) Darier病の1例

○林 昌浩，鈴木民夫 (山形大)
中野 創，澤村大輔 (弘前大)

48歳，女性。体幹に色素沈着を伴う角化性丘疹が多発し，家族歴あり。表皮細胞の棘融解と不全角化あり，ATP2A2遺伝子に変異を認めた。

⑦ (一般) Acro-Dermato-Ungual-Lacrima-Tooth-syndromeの1例

○大嶋雄一郎, 白坂木之香, 柳下武士, 渡辺大輔 (愛知医大)
大野隆之 (愛知医大・口腔外科)
高間弘道 (春日井市)
下村 裕 (山口大)

19歳, 女性。生下時より右示指, 中指, 左中指, 右第2趾欠損。歯牙形成異常, 発汗異常, 疎毛を自覚。遺伝子解析にてAcro-Dermato-Ungual-Lacrima-Tooth-syndromeと診断。

⑧ (一般) BCG接種後に生じた皮膚腺病の1例

○八木久実, 荒井利恵, 安藤佳洋 (大阪府済生会中津)
熊谷雄介 (同・小児科)

1歳8ヶ月, 女児。BCG接種2ヶ月後, 左腋窩に皮膚結節を生じ, その後自壊したが, 経過観察で軽快した皮膚腺病の1例。

⑨ (一般) Ichthyosis with confettiの1例

○乃村俊史, 清水 宏 (北海道大)

35歳, 男性。生下時から全身に潮紅と鱗屑。KRT10にスプライスサイト変異を認め, ichthyosis with confettiと確定診断。

⑩ (一般) 虚血性筋膜炎の2例

○高田絵莉菜, 菊澤亜夕子, 皿山泰子 (神戸労災)

虚血性筋膜炎は寝たきり患者などの加重部に生じる比較的稀な皮下腫瘍である。今回, 当院で虚血性筋膜炎を2例経験したので, 文献的考察を含め報告する。

⑪ (ス) ATP2C1遺伝子に新規フレームシフト変異を同定したHailey-Hailey病の1例

○中井一花, 寺前彩子, 鶴田大輔 (大阪市大)
深井和吉 (大阪市立総合医療センター)
中野 創 (弘前大)

30歳, 女性。小学生の頃より膝窩, 肘窩, 頸部, 腋窩にかゆみを伴った皮疹があった。ATP2C1遺伝子に新規変異を同定した。

10:25-11:20

⑫ (一般) 家庭の天ぷら粉内で繁殖したダニの経口摂取によるアナフィラキシーの1例

○藤井翔太郎, 鷲尾 健, 正木太朗 (神戸市立西神戸医療センター)
堀 雅之, 松原康策 (同・小児科)

6歳, 男児。エビの天ぷらを摂取した後にアナフィラキシーを発症。精査にて天ぷら粉内で繁殖したダニが原因であったと診断。

⑬ (一般) 食物アレルギーによるアナフィラキシーの2例

○坂ノ上正直, 松岡温子, 吉福明日香, 有村亜希子, 野元裕輔,
内田洋平, 藤井一恭, 東 裕子, 金蔵拓郎 (鹿児島大)

患者は15歳女性と65歳女性。食物アレルギーによるアナフィラキシー症状を伴った2例を経験したので報告する。

⑭ (ス) インフルエンザワクチン接種後に発症したangioedema with eosinophilia

○会津隆幸, 相楽千尋, 中野 創, 澤村大輔 (弘前大)

34歳, 女性。インフルエンザワクチン接種翌日より下肢に浮腫, 膨疹が出現。体重が4kg増加。好酸球33%と上昇。組織は好酸球性肉芽腫性脂肪織炎。ステロイド内服なしに軽快。

⑮ (一般) レーザー・トレラ徴候は実在するか？

○岡林 綾, 池永達彦, 荒井桜子, 東田理恵, 中川浩一 (富田林)
レーザー・トレラ徴候は, 痒みを伴う脂漏性角化症が急激に多発すると, 内臓悪性腫瘍の存在を示唆するというものである。しかし, その期間や個数については詳細な定義はない。文献的考察を試みたい。

⑯ (ス) CLEIA法で検出し得なかった抗Dsg1抗体陽性の落葉状天疱瘡

○石井文人, 古賀浩嗣, Teye Kwesi, 大畑千佳, 名嘉真武国 (久留米大)
55歳, 男性。両頬部紅斑を主訴。DIFで表皮細胞間にIgG, IgAが沈着。CLEIA法ではなくELISA法で抗Dsg1抗体を検出した。

⑰ (一般) 糖尿病患者に生じた肢端紅痛症の1例

○菊地克子, 佐々木留伊, 山崎絵美, Chant Kumtornrut, 相場節也 (東北大)
東條玄一 (みやぎ県南中核)
47歳, 女性。一年半前から両下肢に紅斑と熱感を伴う疼痛を自覚。皮膚科での血液検査でHbA1c10%の糖尿病が見つかった。

⑱ (一般) 島根大および札幌医大におけるアトピー性皮膚炎患者への思春期アレルギー実態に関するアンケート調査

○金子 栄, 森田栄伸 (島根大)
澄川靖之 (札幌医大)
室田浩之, 田原真由子 (大阪大)
JEDCA共同研究として行なった調査のうち, 島根大と札幌医大のアトピー性皮膚炎患者それぞれ50名に行なった結果を報告する。

⑲ (一般) 皮膚ループスエリテマトーデスの痒み

○古川福実 (高槻赤十字)
国際皮膚ループスエリテマトーデスのアンケート調査で, 70~80%の患者が痒みをうたえていた。

11:30-12:30

ランチオンセミナー

第1会場 (12階特別会議場)

講演1

座長 吉川邦彦先生 (大阪大学 名誉教授)

「乾癬治療ピラミッド計画2017~作用機序から治療戦略を考える~」

飯塚 一先生 (廣仁会 札幌乾癬研究所 所長/旭川医科大学 名誉教授)

講演2

座長 橋本公二先生 (愛媛大学 名誉教授)

「使用経験から考えるアプレミラストの可能性」

大槻マミ太郎先生 (自治医科大学 臨床医学部門 皮膚科学 教授)

セルジーン株式会社

11：30－12：30

第2会場（11階1101－1102）

座長 古川福実先生（高槻赤十字病院 病院長）

講演1

「アトピー性皮膚炎の病態に基づくピンポイントな新規治療法」

横関博雄先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 皮膚科学分野 教授）

講演2

「皮膚免疫応答の生体イメージング」

椛島健治先生（京都大学大学院医学研究科・医学部 皮膚科学 教授）

グラクソ・スミスクライン株式会社

12：40－13：20

⑳（一般）成人アトピー性皮膚炎のdeck-chair signと発汗機能の関係に関する考察

○室田浩之，田原真由子，外村香子，片山一郎（大阪大）

経過の長期化したアトピー性皮膚炎患者でdeck-chair signを示す症例は少なくない。この表現型がアトピー性皮膚炎の長期寛解維持のヒントになると考え、発汗との関連について考察を行なった。

㉑（一般）シェーグレン症候群（SjS）に発症した抗TNF α 製剤による薬疹の1例

○芦田美輪，竹中 基（長崎大）

寶来吉朗（同・リウマチ膠原病内科）

56歳，女，SjS。体幹に多発する浮腫性紅斑を認め，組織学的にLeukocytoclastic vasculitisであった。関節リウマチで使用中の抗TNF α 製剤を中止し消失した。

㉒（一般）乾癬様の爪病変を伴った好酸球性膿疱性毛包炎の2例

○梅垣知子，種本紗枝，久保亮治，高橋勇人，栗原佑一，

高杉亜里紗，柳澤絵里加，齋藤昌孝，天谷雅行（慶應大）

44歳，男性。全身の紅斑と膿疱，爪の混濁肥厚あり。爪生検で好酸球浸潤。71歳，女性。手掌足底の紅斑，膿疱，爪の変形あり。

㉓（一般）全身性強皮症患者における脊椎石灰化病変の合併について

○茂木精一郎，関口明子，石川 治（群馬大）

CTにて，強皮症患者の17%（27/159人）で脊椎石灰化がみられた。痺れや運動障害が出現した場合は考慮すべき合併症と考えた。

㉔（一般）琉球大学皮膚科における全身性強皮症120例の臨床像ならびに予後についての検討

○山本雄一，宮城拓也，高橋健造（琉球大）

過去10年間に琉球大学皮膚科で診断，治療した全身性強皮症120例の臨床像，合併症，予後に關して検討を行ったので報告する。

- ②⑤ (一般) NAD(P)Hキノンオキシドレダクターゼ1 (NQO1) の誘導物質は悪性黒色腫におけるβ-ラパコンの殺細胞効果を増強する

○荒川伸之, 天野博雄 (岩手医大)
柴崎晶彦, 前沢千早 (同・医歯薬総合研究所 腫瘍生物学研究部門)
赤坂俊英 (北上済生会)

悪性黒色腫において、カルノシン酸を用いたNQO1の発現誘導によりβ-ラパコンの殺細胞効果を増強させることを見出した。

13:25-14:05

- ②⑥ (一般) Bothnia型と考えた非表皮融解性掌蹠角化症の1例

○山西清文 (兵庫医大)

30歳代, 男性。掌蹠の紅斑と過角化を主訴に来院, transgradiensを認めた。

- ②⑦ (一般) 全身に膿疱性乾癬様皮疹が多発した*Microsporum canis*による汎発性白癬の1例

○須賀 康, 横山華英, 木村有太子, 栗原麻菜, 高森建二, 比留間政太郎 (順天堂大浦安)
30歳, 男性。体幹・四肢に紅色丘疹と小膿疱が多発。患者生毛と飼い猫の真菌培養が陽性。形態学的な検査とPCR法で*Microsporum canis*による汎発性白癬と診断。

- ②⑧ (一般) 表皮融解性母斑を持つ父と表皮融解性魚鱗癬の子の親子例: 次世代での表皮融解性魚鱗癬発症リスク予測

○秋山真志, 河野通浩, 武市拓也, 室 慶直 (名古屋大)
須賀 康 (順天堂大浦安)

兄は全身に表皮融解性魚鱗癬を認め, 父は体表面積の0.5%の表皮融解性母斑がある。父の精液内の病因遺伝子変異含有率を調べた。

- ②⑨ (一般) 高齢者アトピー性皮膚炎病変部の家塵ダニアレルゲン局在についての解析

○種井良二 (東京都健康長寿医療センター)
長谷川康子 (同・老年病理)

高齢アトピー性皮膚炎患者の無疹部, アトピーPT部, 病変部でのDerfl抗原の局在をIgE陽性細胞, 樹状細胞との関連で解析した。

- ③⑩ (一般) スキャナー搭載型CO₂レーザーが奏功した難治性アミロイド苔癬

○清水忠道, 鹿見山 浩 (富山大)

70歳, 男性。両下肢のアミロイド苔癬にCO₂レーザーによる治療を開始。2年間で皮疹は平坦化。タッチテストを用いて治療前後での知覚を評価。

- ③⑪ (一般) Scabetic leukocytoclastic vasculitisの1例

○波多野 豊, 中田京子, 竹尾直子 (大分大)

82歳, 男性。躯幹四肢の多発性痒痒性皮疹の経過中, IgA血管炎を生じた。ストロメクトール内服後, 全ての皮疹は消退した。

③② (一般) Infundibular SCC ～鼻翼部発生の2例報告～

○清原隆宏, 宮本真理, 四十万谷貴子, 長野奈央子, 寺井沙也加, 中丸 聖, 檜村 馨, 谷村裕嗣
(関西医大総合医療センター)
鈴木健司 (同・形成外科)
岩井 大 (関西医大耳鼻咽喉科頭頸部外科)

鼻翼部発生のinfundibular SCC を2例続けて経験した。75歳男性：遠隔転移, 73歳男性：局所再発。既報告に比して, 高悪性度であった。

③③ (一般) 尋常性乾癬と白癬；IL-17を介した臨床像

○山中恵一 (三重大)
今福信一 (福岡大)

尋常性乾癬の治療において抗IL-17抗体製剤を使用すると, 真菌感染が増加すると言われる。IL-17の真菌感染に対する免疫応答を示唆するものである。尋常性乾癬の臨床像は, しばしば白癬のそれに類似する。IL-17を介した反応から臨床像を推論する。

③④ (一般) ヒドロキシクロロキンの併用が巨大な潰瘍の治療を促進した深在性ループスエリテマトーデスの1例

○長谷川 稔, 小泉 遼, 尾山徳孝 (福井大)

42歳, 女性。SLEの免疫抑制療法中に, 腰臀部に硬結, 潰瘍が出現して難治。ヒドロキシクロロキン内服後, 速やかに肉芽形成が促進。

③⑤ (一般) 壮年期以前からの皮疹をベースに長い病歴を有する悪性黒色腫の特徴

○奥山隆平, 皆川 茜, 木庭幸子, 小川英作, 古賀弘志 (信州大)

悪性黒色腫は, 壮年期以前からの皮疹をベースに長い病歴を有する場合があります, このような悪性黒色腫に特徴がないか検討した。

③⑥ (一般) サルコイドーシス患者に多発する皮膚線維腫について

○山本俊幸 (福島県立医大)

皮膚線維腫はSLEを始めとする膠原病, 炎症性腸疾患, アトピー性皮膚炎などの疾患や免疫抑制剤内服中の患者に多発してみられることが知られている。過去に当科で経験した, サルコイドーシス患者に複発した皮膚線維腫の症例を供覧する。サルコイド肉芽腫の形成にはTh1タイプのサイトカインが主に関与するが, サルコイドーシスは慢性化/進行するとTh2へシフトして線維化が誘導されることが考えられている。皮膚線維腫の発症にも関与しているかもしれない。

③⑦ (一般) DPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡の6例

○田中俊宏, 加太美保, 藤本徳毅 (滋賀医大)

当科で経験したDPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡6例について, 臨床的特徴を検討し, CD26の免疫組織学的検討を行った。

③⑧ (一般) 抗トポイソメラーゼI抗体陽性全身性強皮症患者において間質性肺炎の増悪と関連する因子についての検討

○竹原和彦, 吉村 紫, 松下貴史, 濱口儒人 (金沢大皮膚分子病態学)

抗トポイソメラーゼI抗体陽性全身性強皮症で初診時に間質性肺炎合併なし12例中10例は経過中にも発症せず, 予後良好であった。

15：10－16：10

スイーツセミナー

第1会場（12階特別会議場）

座長 島田眞路先生（山梨大学 学長）

「免疫研究と臨床応用 免疫チェックポイントとCAR-T細胞の話題も含めて」

熊ノ郷 淳先生（大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫内科学教室 教授）

小野薬品工業株式会社/ブリistol・マイヤーズスクイブ株式会社

第2会場（11階1101－1102）

座長 岩月啓氏先生（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野 教授）

「Aryl hydrocarbon receptor研究による社会貢献—油症および炎症性皮膚疾患の治療—」

古江増隆先生（九州大学医学研究院皮膚科学 教授）

大鵬薬品工業株式会社

16：20－17：00

共催セミナー

12階特別会議場

座長 西岡 清先生（兵庫医科大学 常務理事）

「History of atopic dermatitis: an European perspective」

Alain Taieb先生

(Professor, Department of Dermatology and Pediatric Dermatology, CHU de Bordeaux, France)

サノフィー株式会社

17：10－17：50

イブニングセミナー

12階特別会議場

座長 宮地良樹先生（滋賀県立総合病院 総長兼病院長）

「私のアトピー性皮膚炎研究：日常臨床から考えてきたこと

My point of view on atopic dermatitis—Past and Perspective—」

片山一朗先生（大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科 教授）

マルホ株式会社

19：00－21：00

懇親会

リーガロイヤルホテル大阪 光琳の間 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68

3/11 (日) **(第2日目)**

8:30-9:15

モーニングセミナー

12階特別会議場

座長 塩原哲夫先生 (杏林大学医学部皮膚科 名誉教授)

「乾癬：外用からバイオまで」

戸倉新樹先生 (浜松医科大学皮膚科 教授)

協和発酵キリン株式会社

9:25-10:10

③⑨ (一般) 副鼻腔炎の手術後に爪病変が軽快したyellow nail syndromeの2例

○濱崎洋一郎, 林 周次郎, 簀持 淳, 井川 健 (獨協医大)

52歳と64歳, 女性。慢性副鼻腔炎, 慢性気管支炎あり。手足爪の伸びが遅延し肥厚, 黄色~褐色化。副鼻腔炎術後に爪病変軽快。

④⑩ (一般) 本態性血小板増多症に多指趾の爪甲色素線条を伴った症例

○宇原 久, 澄川靖之 (札幌医大)

60歳代, 女性。初診8ヶ月前より爪に線が入り始めた。数年前よりヒドロキシウレアを内服中である。血小板数は86万/ μ lだった。

④⑪ (一般) 腰椎圧迫骨折を伴った膿疱性乾癬の1例

○藤井麻美, 守屋智枝, 高橋智子, 水谷陽子, 加納宏行, 清島真理子 (岐阜大)

藤井建人 (岐阜県立総合医療センター)

石塚恭平, 田中 領 (岐阜大・整形外科)

大西秀典 (同・小児科)

43歳, 男性。約20年前より尋常性乾癬。腰痛, 発熱, 全身の紅斑と膿疱が出現し膿疱性乾癬, 乾癬性関節炎による腰椎圧迫骨折と診断。

④⑫ (一般) 当院における疥癬の集団発生

○宮本花里奈, 庄司昭伸, 城 大介 (池田回生)

当院における疥癬患者の集団発生とミネラルオイルを使用してヒゼンダニを観察した結果について報告する。

④⑬ (一般) ペニシリンで誘発された伝染性単核球症の1例

○小豆澤宏明, 宮川 史, 浅田秀夫 (奈良県立医大)

26歳, 男性。頭痛, 咽頭痛, 発熱でアモキシシリン・クラブラン酸を内服後, 全身の紅斑, 肝機能障害, 頸部リンパ節腫脹が出現。

④⑭ (一般) 頸部壊死性筋膜炎と思われた1例

○三宅雅子, 益子礼人, 内田修輔, 柳原茂人, 大磯直毅, 川田 暁 (近畿大)

和田珠恵 (PL病院)

59歳, 女性。顔面と頸部に発赤・腫脹・疼痛・壊死を認めた。抗生剤投与とデブリドマンを行ったところ, 症状は改善した。

④⑤ (ス) メス刃を使わない、白癬の鏡検用検体採取方法について

○田邊 洋, 後藤和哉, 要石就斗, 小川万里依 (天理よろづ相談所)
KOH直接鏡検法の簡便化目的に、メス刃を使用せずスライドガラスにより白癬の患部を擦過し、検体を採取する方法を提案したい。

10:15-11:10

④⑥ (一般) 神経線維腫症1型(NF1)における全身の皮膚神経線維腫の推計法

○吉田雄一, 江原由布子, 山元 修 (鳥取大)
NF1患者に生じる皮膚の神経線維腫について特定の部位から全身の個数を推計する方法について報告する。

④⑦ (一般) トラスツズマブとパクリタキセルが著効した進行期乳房外Paget病の1例

○保延亜希子, 大沼毅紘, 猪爪隆史, 島田眞路, 川村龍吉 (山梨大)
肛門周囲進行期乳房外パジェット病の診断で、免疫染色でHER2 score3+。トラスツズマブとパクリタキセルが著効した。

④⑧ (一般) 脂漏性角化症内に発生したBowen病の1例

○今谷友香, 大下彰史, 小森敏史, 浅井 純, 加藤則人 (京都府立医大)
80歳, 女性。40年程前より右下腹部の褐色斑を認め、徐々に拡大してきた。病理組織所見より、脂漏性角化症の構築の中にBowen病が浸潤していると考えた。

④⑨ (ス) エクリン母斑の1例

○西崎絵理奈, 大原裕士郎, 細本宜志, 吉岡 希, 山本容子, 村本睦子, 磯貝理恵子, 山田秀和 (近畿大奈良)
症例は42歳, 男性。数十年前より右頸部に淡紅斑, 皮疹部に発汗を認めた。生検の結果, エクリン汗腺の軽度増殖を認め, エクリン母斑と診断した。

⑤⑩ (一般) 腫瘍皮膚科開設とその後1年間の経験について

○爲政大幾, 花岡佑真, 西平守明, 大江秀一 (大阪国際がんセンター)
種村 篤 (大阪大)
当院は大阪府立成人病センターの新築移転により、2017年3月末に大阪国際がんセンターと改称して開院したが、それに際して2017年10月に腫瘍皮膚科を開設し、新病院開設時にフル稼働するに至った。今回、わが国でもあまり馴染みの無い「腫瘍皮膚科」の開設経緯とその後の臨床経験について述べる。

⑤⑪ (一般) 当科で経験した悪性黒色腫30例の検討

○横見明典, 後藤範子, 神谷 香 (市立豊中)
人口約39万人の豊中市において平成25年4月以降5年間に当科初診の悪性黒色腫30例について検討した。

⑤⑫ (一般) 診断に苦慮したSpitz母斑の1例

○川名博徳, 藤澤大輔, 照井 正 (日大)
田中 勝 (女医大東医療)
37歳, 女性。3年前に右大腿の皮疹に気づいた。右大腿外側に11mm大の褐色斑があり, dermoscopyで辺縁定型色素ネットワーク, 中心部は類円形の青白色領域がみられた。切除生検で上記診断となった。

⑤③ (一般) 左下腿鬱滞性潰瘍から生じた有棘細胞癌の1例

○福山國太郎, 塚崎綾乃, 高橋玲子 (関西労災)

70歳, 男性。22年前から左下腿に潰瘍形成。外用療法と圧迫療法を行うも難治。1ヶ月前から潰瘍内に隆起性病変が見られ生検で確定。

11:15-11:50

⑤④ (一般) タクロリムス軟膏でなぜ痒くなるか

○大塚篤司, 椛島健治 (京都大)

アトピー性皮膚炎の患者さんがタクロリムス軟膏を外用するとかゆみやヒリヒリが生じやすい。このメカニズムについて我々の研究結果を踏まえ解説したい。

⑤⑤ (一般) 好塩基球刺激試験が陽性であったバナナとキウイアレルギーの1例

○岸本 泉, 神戸直智, 合田遥香, Nguyen Thi Hong Chuyen, 上津直子, 岡本祐之 (関西医大)
20歳, 男性。バナナにて口腔内症状の既往があり摂取は控えていた。今回キウイにてアナフィラキシー症状を呈した。ラテックスの使用歴はない。

⑤⑥ (一般) The mechanism of Acupoint Stimulation for Relieving Pruritus and the Selection of Acupoints by Syndrome Differentiation

○Mengjiao Chen, Lili Yang, Huimin Zhang (Shaoxing Traditional Chinese Medicine Hospital)

Pruritus is a common phenomenon in dermatology with an unpleasant cutaneous sensation which provokes the desire to scratch and is lack of targeted treatment. The mechanism of pruritus is complex and has not yet been fully explored. In Traditional Chinese Medicine(TCM) theory, pruritus is related with wind, dampness, heat, stasis and deficiency. Acupoint stimulation therapy based on TCM theory has been commonly used to treat itch, which involves stimulation of specific points on the skin using needlepoints, pressure or heat. Acupuncture therapy has the function of dredging the channel, invigorating the circulation of blood, dispelling the wind and expelling pathogenic factors. Several studies indicated that acupuncture may have a role in improving the clinical efficacy of itch. However, there are not enough gold-standard studies (i.e. RCTs) to support the conclusion. In this article, we mainly summarize the possible mechanisms of acupoint stimulation in treatment of pruritus, introduce the selection of acupoints by syndrome differentiation and call for more studies on various ethnic samples to further clarify the mechanisms.

⑤⑦ (一般) 造影剤が原因と考えた急性汎発性発疹性膿疱症

○角田佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子 (住友)

76歳, 女性。造影CT施行5日後に全身の発疹と発熱で当科受診。急性汎発性発疹性膿疱症と診断。パッチテストでイオパミドール陽性。

⑤⑧ (一般) テグレート内服中に発熱, 皮疹が出現し, TARC著明高値であったが, HHV-6の再活性化を認めなかった1例と再活性化を認めた1例

○文 省太, 太田朝子, 坂本幸子, 大川たをり, 池上隆太 (JCHO大阪)

症例1: 56歳, 男性。カルバマゼピン内服約15日後に発熱TARC 50,899pg/ml。症例2: 94歳, 女性。カルバマゼピン内服約50日後に発熱TARC 50,556pg/ml。

12：00－13：00

ランチオンセミナー

12階特別会議場

座長 天谷雅之先生（慶應義塾大学医学部 皮膚科 教授）

「抗PAF作用を有するルパタジンの抗ヒスタミン薬に対する位置づけ」

佐藤伸一先生（東京大学大学院医学系研究科 皮膚科 教授）

田辺三菱製薬株式会社

13：15－13：55

⑤⑨（一般）顔面に類上皮細胞肉芽腫を伴い発症したシェーグレン症候群の1例

○早川 順，菅野秀美，佐藤洋平，大山 学（杏林大）

43歳，女性。頬部硬結を主訴に来院。非乾酪性肉芽腫を形成。口唇生検，唾液腺シンチなどに異常あり。硬結はPSL投与で改善。

⑥⑩（一般）長期経過でポイキロデルマを呈した小児CADMの1例

○小川晋司，野老翔雲，並木 剛，横関博雄（東京医科歯科大）

5歳，男児。発熱，咳嗽，頬部・四肢の角化性紅斑。組織で表皮壊死，液状変性，ムチン沈着。間質性肺炎・筋炎なし。自己抗体陰性。皮疹は治療抵抗性。

⑥⑪（一般）顔面浮腫と嚥下障害を伴った皮膚筋炎に対し，免疫グロブリン大量療法が著効した2例

○大塚晴彦，山野 希，今村真也，西岡美南，濱岡 大，井上友介，足立厚子
（兵庫県立加古川医療センター）

村津麻紀（加古川市）

小川 豊（加古川市）

濱口儒人（金沢大）

著明な顔面浮腫と嚥下障害を伴いステロイドパルス療法が不応の皮膚筋炎に対し，免疫グロブリン大量療法が著効した2例を経験した。

⑥⑫（一般）シェーグレン症候群に合併したアミロイドーシスの1例

○山下千佳紗，田中 文，白井洋彦（堺市立総合医療センター）

安田祥子，松岡 唯，門脇未来（同・形成外科）

園延尚子（近畿中央胸部疾患センター・呼吸器内科）

70歳，女性。シェーグレン症候群で他院通院中。左下腿に皮下硬結あり，拡大しているため当科紹介。皮膚生検でアミロイドーシスの診断。

⑥⑬（一般）抗リン脂質抗体症候群を合併したSLE患者に併発した好酸球性筋膜炎の1例

○高田洋子，東山真里，西本知子，横井一範（日生）

小瀬戸昌博（同・総合内科）

37歳，男性。基礎疾患としてSLEと抗リン脂質抗体症候群あり。足潰瘍加療中に下腿の疼痛と板状硬化が出現。好酸球性筋膜炎と診断しPSL 60mg内服加療で改善した。

⑥4 (一般) 過去50年間に一般病院で扱ったL型ハンセン病7例の報告

○熊野公子 (兵庫県特定医療担当参与)
村田洋三 (神戸市立医療センター中央市民)
土居敏明 (大阪労災)
西谷奈生 (西宮市立中央)

我々は大学あるいは一般病院でハンセン病の治療を行ってきたが、そのうちのL型の7例について、その治療と後遺症について報告する。

14:00-14:50

⑥5 (一般) 異型スピッツ母斑や異型スピッツ様腫瘍との鑑別を要した顔面の無色素性黒色腫

○三浦圭子 (東京医科歯科大 病理部/病理診断科)
徳永千春 (大和市長)
小野田 登 (同・病理診断科)
田中 勝 (東京女子医科大学東医療センター)

49歳、女性の左鼻根部に生じた無色素性・ポリープ状でS100とMelanA弱陽性の紡錘細胞から成るスピッツ母斑様黒色腫を報告する。

⑥6 (一般) 骨欠損を伴う側頭筋下腫瘍の1例

○藤田真文, 大岩智大, 山下千聡, 高瀬早和子, 西村陽一, 太田深雪, 八木洋輔, 立花隆夫
(大阪赤十字)

6歳、女児。生下時より左眉外側に小孔を伴う皮下腫瘍を認めた。臨床、病理および画像所見よりdermoid cystと考えた。

⑥7 (一般) エトポシドが奏功した乳房外パジェット病の多発リンパ節・骨転移

○中島英貴, 木戸一成, 佐野栄紀 (高知大)

82歳、男性。陰嚢腫瘍の切除と鼠径リンパ節廓清後の多発転移が、エトポシドによりCEA低下とともに画像上の寛解を認めた。

⑥8 (一般) 興味ある皮疹を呈した免疫チェックポイント阻害剤使用患者の3症例

○山本有紀, 稲葉 豊, 奥平尚子, 三木田直哉, 神人正寿 (和歌山医大)

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) による皮膚障害は、悪性黒色腫では白斑、乾癬様皮疹が多くみられるが、時に薬疹との鑑別が問題になる場合がある。当科で経験した、非特異的皮疹 (悪性黒色腫2名、肺癌1名) の患者を供覧し、新たなる問題提起を行いたいと考えている。

⑥9 (一般) 右後頭部に発生し腺癌への分化を示したボーエン病の1例

○藤森なぎさ, 小林佑佳, 加賀野井朱里, 小澤健太郎 (大阪医療センター)
東山真里 (日生)

83歳、女性。1ヶ月前より右後頭部の腫瘍が増大したため受診。全切除し、病理組織学的に表皮内にボーエン病、真皮内に腺癌の所見を認めた。

⑦0 (一般) 左下腹部に生じたcellular angiofibromaの1例

○岡本真由美, 壺井聡史, 岡 志帆, 梅田直樹, 河合幹雄, 秀 道広 (広島大)
岩佐葉子 (京都市立・病理診断科)
真鍋俊明 (滋賀県立成人病センター・病理診断・教育支援部門)

61歳、女性。左下腹部の鶏卵大の皮下腫瘍を主訴に受診。全摘出し、cellular angiofibromaと診断した。

⑦① (ス) 乳頭部皮膚にびらんを呈した乳腺腫瘍の2例

○坂本幸子, 藤本 雷, 井庭憲人, 執行彩希, 岸田寛子, 片岡葉子 (大阪はびきの医療センター)
乳頭部皮膚にびらんを呈した乳腺腫瘍の2例を報告する。68歳女性, 病理診断は非浸潤性乳管癌。92歳女性, 病理診断は乳房パジェット病であった。

14:55-15:20

⑦② (一般) 激しい疼痛を伴った帯状疱疹の経過中に発症した麻痺性イレウスの1例

○近藤由佳理, 丸山彩乃, 吉良正浩 (市立池田)
79歳, 女性。激しい疼痛を伴った右Th10-12帯状疱疹にて入院加療。経過中に腹痛, 腹部膨満感が出現, 腹部レントゲンにてニボー像を認め麻痺性イレウスと診断した。

⑦③ (一般) 健康な成人男性の右顔面に生じた輸入真菌感染症の1例

○北場 俊 (吹田市)
後藤範子, 神谷 香, 横見明典 (市立豊中)
42歳, 男性。海外滞在中に右耳下腺腫脹, 右顔面に皮膚潰瘍が出現。皮膚潰瘍部の培養検査にて真菌を検出。テルビナフィン内服にて症状は改善した。

⑦④ (ス) 臨床的に毛孔性紅色秕糠疹と鑑別を要した乾癬の1例

○樽谷勝仁, 伊賀佐紀, 加藤健一 (近畿中央)
中西孝文 (伊丹市)
44歳, 女性。臨床及び病理組織像より毛孔性紅色秕糠疹と診断。エトレチナート内服を行うも効果不十分でシクロスポリン内服に切り替え改善。

⑦⑤ (一般) まつげのライフサイクル

○和田康夫, 田中麗子 (赤穂市民)
まつげを2年以上にわたり連日記録した。ビマトプロストを使うと, もう周期がどう変化するか, 止めるとどうなるのか述べる。

15:25-16:00

⑦⑥ (一般) 乾癬様病変を多発した皮膚サルコイドーシスの1例

○黒川晃夫, 谷崎英昭, 森脇真一 (大阪医大)
68歳, 女性。手指, 手背, 頸部, 背部に, 乾癬様病変が多発していた。組織学的にはサルコイドーシスに矛盾しない像を呈していた。

⑦⑦ (一般) 両側上眼瞼腫脹を呈したCushing症候群

○金澤あずさ, 岩橋ゆりこ, 大草健弘, 笠 ゆりな, 宇野裕和, 中田土起丈 (昭和大藤が丘)
48歳, 女性。2年来の両側上眼瞼腫脹。生検にてムチン沈着。画像検査にて副腎に結節性病変を認め, 血中ホルモン測定により診断。

⑦⑧ (一般) 特異な皮疹を呈した梅毒の1例

○川本友子, 田上尚子, 園田早苗 (大手前)
20歳, 女性。顔面, 上肢, 体幹に浸潤を触れる大小の同心円状の紅斑を認めた。RPRカード法32倍, TP抗体定量471.7 C.O.I。

⑦⑨ (一般) 色素性皮膚病変の青色は青くない

○坂井浩志, 生長久仁子, 安藤純実 (大阪警察)

皮膚色素性病変の青色は深部のメラニンの存在を示す重要な指標であるが, 実際には青くなく, 彩度の低い橙色が目の錯覚により青く見える。

⑧⑩ (一般) メルケル細胞がんに対するアベルマブの有効性と安全性

○山崎直也, 堤田 新, 高橋 聡, 並川健二郎 (国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科)

メルケル細胞がんは希少がん中の希少がんであるため, 標準的な薬物療法が存在しなかったが, 2017年のはじめての治療薬として抗PD-L1抗体アベルマブが承認された。今回当科での投与経験について報告する。

⑧⑪ (一般) 表皮水疱症に対する治療法開発

○玉井克人 (大阪大再生誘導医学, 皮膚科)

小紫雄貴, 外村香子, 林 美沙, 奥田英右, 清原英司, 種村 篤, 金田真理, 室田浩之, 片山一朗 (大阪大)

菊池 康, 金田安史 (同・遺伝子治療学)

片山皮膚科学教室開設時に開始した表皮水疱症外来において, 現在表皮水疱症治療法開発のための二つ医師主導治験を進めている。

第467回 日本皮膚科学会大阪地方会 御案内

[大阪開催]

- 期 日: 平成30年5月12日(土)
開始時間はプログラムにてお知らせします。
- 会 場: 朝日生命ホール
〒541-0043 大阪府中央区高麗橋4-2-16
TEL: 06-6202-3919
- 主 催: 池上隆太 (JCHO 大阪病院)

[和歌山開催]

- 期 日: 平成30年5月12日(土)
開始時間はプログラムにてお知らせします。
- 会 場: 和歌山県 JA ビル
〒640-8331 和歌山市美園町5-1-1
TEL: 073-488-5641
- 主 催: 神人正寿 (和歌山医大)
- 演題申込: WEB サイトにアクセスの上, 所定の項目を入力して下さい。
<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/hifu/> 電子メール, FAX のみでの申込は不可です。
一週間たっても演題受領の通知がない場合は事務局にお問い合わせ下さい。
TEL: 06-6879-3037/FAX: 06-6879-3039 info-hifu@derma.med.osaka-u.ac.jp
- 演題申込締切日: 平成30年4月2日(月)(必着)
- 発表形式: 発表は, Windows 7 の Power Point 2013 で行います。

注 意 !!

- ①発表時間は一般演題5分，スライド供覧3分，討論はいずれも2分とします。
- ②発表の際には COI 開示が必要です。
- ③発表は Windows 10+Power Point 2013, 2016 で行います。
当日はデータを必ず USB メモリと Windows フォーマットの CD-R (CD-RW は不可) 両方にてご持参下さい。(いずれか一方で読み込みに失敗した場合の予備です)
なお、持参されたメディアに格納されているすべてのファイルについては、不測の事態にそなえ各自バックアップ願います。
- ④ファイル名は「半角演題番号+全角名字」として下さい。
(例、演題番号3番，関西太郎先生の場合は「03関西」となります。)
- ⑤発表当日データ受付にて，発表の30分前までにご自身でファイルサーバに登録して頂き，動作確認して下さい。データは，LAN 回線で会場内の PC に転送いたします。(発表後のデータは終了後，責任を持って消去します。)
- ⑥スライド送りは，原則として発表者で行って頂きます。機種依存性の高いファイルを使用しての発表は，ご遠慮下さい。
自動プレゼンテーションを設定しないで下さい。文字化けを防ぐ為，特殊なフォントの使用は避けて下さい。発表データは，作成した PC 以外での動作の確認をお願いします。
- ⑦本文300字以内の抄録をWebフォームまたはメールにて学会当日までに提出して下さい。(字数超過の場合は係にて削除させて頂くことがあります。)抄録にはタイトル，3語以内のキーワードを記載して下さい。また，演者全員の氏名についてローマ字表記をお願いいたします。
<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/hifu/>
- ⑧個人が識別され得る症例の提示に際しては患者のプライバシー保護の観点から，演者の責任において十分な配慮を払い，発表頂くようお願いいたします。会場内でのスチル，ビデオ撮影はプライバシーおよび著作権保護の為，禁止いたします。

お 知 ら せ

皮膚科専門医後実績登録は電子受付システムにて行います。専門医の方は日本皮膚科学会会員証を必ずご持参ください。受付時間は大阪地方会受付開始時間より，3/10は16時まで，3/11は14時までとします。3/10，3/11の両日出席されても6単位のみ登録となります。受付時間外は，後実績登録はできませんのでご注意ください。

日本皮膚科学会大阪地方会ホームページ
<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/hifu/>



事務局よりお願い

異動，転居，退会についてのご連絡は日本皮膚科学会とは別に大阪地方会事務局宛にも必ずご連絡ください。お手数ですが，葉書，FAX または E-mail でのご連絡をお願い致します。

日本皮膚科学会大阪地方会 事務局
〒565-0871 吹田市山田丘 2-2
大阪大学医学部皮膚科学教室内
TEL: 06-6879-3037 FAX: 06-6879-3039
info-hifu@derma.med.osaka-u.ac.jp

投稿についてのお知らせ

「皮膚の科学」誌は日本皮膚科学会大阪地方会ならびに日本皮膚科学会京滋地方会の機関誌です。

症例報告，研究報告，総説，使用経験などの原著の投稿を歓迎します。原稿は随時受付けておりますので，編集部宛に原稿をお送り下さい。

例年，2～4月は専門医関連の投稿が増えますが，修正，再投稿を要することが多く，採択までに時間を要することがありますので，あらかじめゆとりを持って投稿してください。

なお，至急掲載を要する場合は，特別掲載料により受け付けておりますので，ご相談下さい。

※ 皮膚科入局2年未満（投稿時）の会員（大阪地方会では研修会員，京滋地方会では，それに準じる会員）からの投稿に関しては，奨励の意味で，掲載料・別冊30部までを無料とします。

電子ジャーナル J-STAGE について

「皮膚の科学」に掲載された論文は，科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE に電子ジャーナルを登載しており，全文閲覧できるほか，PDF 文書としてダウンロードも可能です。ご利用の際には，個人 ID ならびに PW を入力して下さい。ただし，PDF の閲覧は，大阪地方会会員・京滋地方会会員，皮膚の科学個人購読会員に限らせていただいております。

個人 ID（数字5桁）は，雑誌発送の際の封筒宛名シールにも印字しております。

その他，ご不明の場合は，【メールにて】編集部までお問い合わせ下さい。

なお，Journal@rchive は J-STAGE と統合されましたので「皮膚」のバックナンバーもすべて，J-STAGE サイト上での閲覧，検索が可能となりましたので是非ご活用下さい。

皮膚の科学 J-STAGE

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/skinresearch-char/ja/>

編集部 〒565-0871 吹田市山田丘 2-2
大阪大学医学部皮膚科学教室内